

ともに考える防災の未来—私たちの仙台防災枠組 講座シリーズ『基礎から学ぶ 仙台防災枠組』を開催しました(2018/5/18-19)

テーマ：仙台防災枠組、国連世界防災会議

場所：スタンダード会議室 仙台一番町ホール店 6階会議室

2016年から毎年開催されている「基礎から学ぶ仙台防災枠組」が、今年も仙台市と災害科学国際研究所の主催により5月18日、19日に開催され、当研究所の今村文彦所長と泉貴子准教授（地域・都市再生研究部門）が講演を行いました。今年が第3回目の講座シリーズとなります。企業、SBL(仙台市地域防災リーダー)、大学、自治会などから2日間でのべ130名を超える方々が参加され、仙台防災枠組が地域の防災活動にどのように関連しているのかなどについて学んでいただきました。

仙台防災枠組は、2015年に仙台市で開催された「国連世界防災会議」において、187カ国により採択されました。2015-2030年までの15年間に災害への備えを強化するために各国がとるべき防災対策の指針となります。今村所長からは、仙台防災枠組がいつ、どこで、なぜ、誰が、何のために作成したのか？など防災枠組みの基礎、中身、背景について解説がありました。さらに、昨年11月に仙台市で開催された「世界防災フォーラム」には、国内外から約1万人の方が参加されたと同時に、仙台防災枠組実現への取り組みを紹介するなど活発な議論が行われ、2019年11月に開催予定の第2回の「世界防災フォーラム」においても、市民からの事例発表など積極的な参加や世界的な発信が期待されました。

泉准教授からは、仙台防災枠組が世界を対象にした指針であり、すでに日本で行われている様々な防災活動を海外と共有することで、さらに日本はこの枠組みの実現に貢献できることが示されました。政府、学術、企業、コミュニティなどあらゆるステークホルダーが防災活動に参加し、女性・子供・高齢者・障害者などの目線にたった防災対策の実現のために、地域の防災活動を支援し、情報の提供や技術開発、また防災知識の向上など、それぞれの役割を果たし、連携することによって、さらに活動を強化することができることが指摘されました。

続いて、市民の方からもそれぞれ活動事例に関するご報告・発表もいただきました。参加者の方々からも質問やご意見をいただくなど、活発な議論も行われ、それぞれの地域の「防災枠組」を作成してはどうかなどのご提案もいただきました。この講座の応用編は、8月下旬に開催されます。



今村所長の発表



泉准教授の発表